例会記録

十一月例会　平成九年十一月二十二日（土）
順天堂大学医学部九号館八番教室
一、順天堂大学医史学研究室所蔵　吉益東洞自筆『古書医言』について　舘野　正美
一、土佐藩足軽　岡本兵衛の戦病死をめぐって　中西　淳朗

十二月例会　平成九年十二月二十日（土）
順天堂大学医学部九号館八番教室
日本薬史学会と合同例会
一、ビタミンの発見に対する漢方医学の貢献　山下　政三
一、中国システム医療概観（中国衛生年鑑等に見る三級医療網）　川瀬　清
一、江戸時代の腑分の絵図の特質性について　和田和代史

一月例会　平成十年一月十七日（土）
順天堂大学医学部九号館八番教室
一、齋藤玉男―断種法史上の人びと（その一）　岡田　靖雄
一、田代三喜、曲直瀬道三、再考
―導道と三喜、当流について―　○遠藤次郎、中村輝子

例会抄録

順天堂大学医史学研究室所蔵、吉益東洞自筆『古書医言』について

舘野　正美

『古書医言』は、我が国江戸時代における古医方最大の臨床家、吉益東洞が、彼のその独自の病理学的思惟の観点から、中国の古典文献に見える医学思想の諸形態について分析し、これを記述するという、ひとり〝古医方〟の医学体系についての医史学的な見地からの理論的な研究においてのみならず、その医学思想の淵源形態の追究、更には、ひろく中国古代の医学思想全体についての体系的な研究においてもまた、きわめて重要な位置を占めるところの一大著作であったと考えられる。すなわち、彼のこの著作は、総計三十七種類の中国の古典文献の中に散見する中国古代の医学思想について、彼のその独自の観点から、これを分析して記述するという、『薬徴』や『類聚方』とはまた違った意味で、きわめて興味深い文献であったと考えられるのである。

ところでこの『古書医言』には、東洞自筆とされる写本（原稿）が現存する。現在の刊本（文化一一（一八一四）年）および元治元（一八六四）年刊）の約四分の一の分量しかなく、また、そ